特別編　「絵本はホスピタリティの宝箱」に寄せて

新しい連載 はじめました

新連載「絵本はエピソードの宝箱」episode 1 はいかがでしたか。

過去６年の連載「臨床の中に活かす絵本」の提案を行ってきた過程において、とりわけ小児歯科コメディカルの一員として日常の図書館業務と育児支援活動の実践によって、新たな気付きがありました。

プレパレーションやディストラクションに絵本を活用したり、治療を受ける患児のきょうだい児に絵本を用いたりすることの意義と手技は、医療従事者が備えておくべきスキルです。しかしながら、医療者が「医療と絵本」だけに特化した思考でいたのでは、「絵本」というツールに対する見識は広がらず、ともすれば自己満足に陥る危険性もあるのではないでしょうか。つまり、「医療と絵本」の関係だけが論点ではないという新しい視点を持って連載するものです。

感動を分かち合いたいのです

私の司書としてのスタートは、ナーシングライブラリアンでしたので、「医療と絵本」「看護と絵本」はいつも研究対象でした。そして、「医療現場における絵本」を追究してきた経験は、現在勤務する“医療法人元気が湧く”で高められていると信じていました。しかしそれは、司書として、小児歯科コメディカルとしてのおごりであることを知ったのです。

その気付きをくれたものこそ、1600人以上の人々が語る、1600通りの「絵本にまつわるエピソード」なのです。一人の人と、一冊の絵本の間には、特定の両者の関係性だからこそ生まれる化学反応によって、驚くほどに特別で不思議な力が作用されることを知りました。それは予測できることではありません。たとえば、濱野が忘れられない体験をしたからといって同じ絵本を安藤が読んでも、濱野と同じ体験はできないのです。

これは、どんなに長く絵本研究を積み重ねても、得られることのなかった発見です。その不思議な力は、病気や障がい、生死と向き合う人だけにもたらされる特別なものではないのです。

非正規職員の男性の心を救ったり、結婚を決めるツールになったり、大学生や社会人になって直面するつまずきに寄り添ってくれたりと、人それぞれの人生に応じた化学反応のようなことが湧き起こるのです。

言葉の壁を越える絵本を知っていますか

絵本の力とは、個人と絵本の間、広くは、一冊の絵本とひとつの家族の間に生まれるものとは限りません。人それぞれの「絵本にまつわるエピソード」を読んだ人、つまり他人の絵本体験を読んだ人が、心を突き動かされ、感動体験をするのです。

誰かの人生に絵本が寄り添ったとき、人それぞれにエピソードが生まれるという状況は、文字のない絵本が全くそのとおりです。前連載「臨床の中に活かす絵本」の第５回で、ガブリエル・バンサン氏が描く文字のない絵本『アンジュール』(BL出版)についてお話ししたとおり、文字による説明がないから、読んだ人それぞれに異なるストーリーが生まれるのです。

文字のない絵本は、普遍的な芸術性の高さと深いメッセージ性により鋭敏な感性を培うとされ、これまでも注目されてきました。近年では、それらがも

医療法人元気が湧く 編『絵本はホスピタリティの宝箱 エピソード33』(かもがわ出版　2022年刊)

つ力が世界的にクローズアップされ、「サイレント・ブックス」という名称で、難民の子どもたちの支援に大きな力を発揮しているのです。

これは、アフリカや中東からの難民が、イタリアのランペドゥーザ島に押し寄せたことを受けたIBBY（国際児童図書評議会）イタリア支部により、2012年に始まったプロジェクトです[1)]。

環境の急激な変化に怯える子どもたちには、安心できる空間と本が力になると考えたIBBYの呼びかけで、民家を改造した図書館に、世界の文字のない絵本を集めたのです。言語の異なる子どもでも、絵の力だけでお話をたどれる絵本は、今、言葉の壁を越え、すべての子どもたちに開かれているのです。

2020年には、さらに活動枠を広げ、「BOOKS ON BOARD」という新しい取り組みを始め、「不安と恐れの中でも絵本は心を和らげてくれる力があります」と訴えています[1)]。

絵本による社会貢献の使命があるのです

“医療法人元気が湧く”が日本記念日協会に登録して制定した「絵本の日」が10周年の節目を迎えた昨年、記念日文化の発展に貢献した企業として讃えられ、「記念日文化功労賞」を受賞しました。

「絵本の魅力を過去から現在、未来にまでつなぐ文化活動を続け、記念日を通じての育児支援、社会支援に貢献されてきたことを高く評価」されての受賞となりました。また、「これほどまで人々の心に思い出や余韻を残す企画を何年も続けている団体はなく、その意味でも『絵本の日』は記念日の在り方の素敵なモデルケースになっている」との講評もいただきました[2)]。これからの10年が私たちの正念場だと考えます。

「絵本」を介した文化活動を拡大し、育児支援、社会貢献をアクティブに展開する使命を背負う私たちにできること、それはビブリオキッズが根を下ろす福岡市の地域貢献であり、全国の被災地支援であり、難民や途上国への国際支援と視野は広がるのです。

民間図書館が夢のある活動に取り組みます

ビブリオキッズこれからの10年を見据えて、医療法人元気が湧く が新たに立ち上げたのは、「絵本のフォース・プロジェクト」です。私たちは世界の絵本文化の潮流から、“文字のない絵本”と“アフリカ”に着目しています。サイレント・ブックスは、① 言語の壁を越えて世界中のあらゆる人々が親しめる（多様性&公平性）、② 読み手の感性と想像力を無限に育む（包括性）、③ 芸術的、文化的な表現が可能（芸術性・文化性）の３本柱によって情操教育面での支援が実現できると考えたのです。そして動き始めているのです。

新しい絵本観を構築してもらいたいのです

絵本は求めれば誰でもお話を読むことができます。しかし、「絵本の日アワード」に投稿されたエピソードは、受賞作品を社会とシェアできても、その他残る何千もの作品は誰の目にも触れることなく、眠ったままでいます。

人々の心を揺さぶる感動作をそのまま当館で貯蔵しておくのではなく、社会と広く共有したい、特に、医療従事者と多く出会ってもらうことで価値が生まれるのではないかと考え、「小児歯科臨床」の誌面をお借りして公開することにしました。

絵本にまつわるエピソードも、サイレント・ブックスも、「医療と絵本」とはまた違った視点で、医療者が絵本観を改め直す逸材になるでしょう。そして、医療従事者が絵本を評する新しい絵本観の到来を示唆するものと考え、小児歯科医療に携わる皆さま方に、時代の先駆けとなりますよう提案するものです。「絵本はホスピタリティの宝箱」、どうぞ、お楽しみください。

文献

1）日本国際児童図書評議会：IBBYサイレント・ブックス（文字のない絵本）JBBY HP https://jbby. org/silentbooks
2）（一社）日本記念日協会：第18号の「記念日文化功労賞」に医療法人元気が湧く「絵本と図鑑の親子ライブラリー」　日本記念日協会HP http:// www.kinenbi.gr.jp/mypage/4565　2022/12/3